

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第11巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/1518013>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 11, 2015-03. TENDEC Office
バージョン：
権利関係：

1. はじめに

今年は各種学会や研究会との連携が非常に多い年となりました。まず5月に開催された第87回日本消化器内視鏡学会では国内外13の基幹病院から、福岡国際会議場へのライブデモンストレーションを企画しました。画質や費用などの問題点を解決し、新しいスタイルのライブデモンストレーションのあり方を提案した形となりました。第55回日本神経学会、第45回日本膵臓学会では共に学会初となる国際テレカンファレンスが行われ、脳波や不随意運動の動画伝送は特に好評でした。第27回日本内視鏡外科学会では「遠隔教育のトレンド」として特別企画が生まれ、外科領域における様々な取り組みが紹介されました。また看護の領域でも第28回日本手術看護学会と合同で開催された第4回アジア周術期看護学会で国際遠隔医療教育が取り上げられ、手術室看護師へのデモンストレーションが行われました。さらに11月には現地スタッフとの周知な準備の下、メキシコの消化器病学会においてメキシコ初となる日本からのライブデモンストレーションが大成功に終了しました。

第8回アジア遠隔医療シンポジウムは国立大学病院長会議の国際化ワーキンググループとの共催として福岡で開催され、18か国から200名の参加者がありました。日本からの参加も多く、医療関係者と技術者間での領域や地理的境界を越えた直接のやり取りはお互いの問題点や今後の方向性を協議する最高の場となり、活動発展の原動力となるものと期待されます。また本シンポジウムでは初めての企画として、アジア6か国からその国をリードする7病院を接続しアジア病院長会議を行いました。国際交流や遠隔教育の在り方、また海外患者の受け入れの現状など、共通する話題について活発な意見交換がありました。

近年、DVTS（デジタルビデオ伝送システム）に代わる新たなシステムが盛んに利用されるようになり、地域的な拡大や新たなコンテンツの開発に寄与していますが、今年度はその流れがさらに大きくなった感があります。国内への利用も推進されつつあり、胎児医療セミナーや九州・沖縄小児がん拠点病院事業はその代表です。さらに手術ビデオを用いた関連病院間のテレカンファレンスも新たに始まり、好評を得ています。

人事交流では本年度も多くの海外医師を受け入れると共に、看護師や感染チームを交え計10人でシンガポール4病院への視察も行いました。海外派遣はお互いをより深く理解する上でも重要であると共に、遠隔医療活動との相乗効果も大きく今後も継続する予定です。

来年度は当センターを含めた国際関連部署の改組が予定されており、病院の国際業務が一新される予定です。日本全体、また世界をリードする確固たる基盤作りへの新たな一歩として、さらに前進できる年にしたいと願っています。

平成27年3月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター

清水周次

清水周次